

基礎分野

8単位 240時間

目的

- (1) 科学的思考の基礎を身につける。
- (2) 人間と人間の生活を理解する。
- (3) 個人を尊重し他者との人間関係のあり方を理解する。
- (4) 国際化、情報科学に対応できる能力を身につける。

	科目	単 位 (時間)	設 定 理 由	目 的	主 な 内 容
科学的 思考の 基礎	生物学	1 (15)	自然科学の一分野を通し、科学的思考力を鍛える。生命の本質を学び、専門分野を理解する一助とする。	1. 生物学の基礎知識を身につける。 2. 生命を生物体としてとらえる。 3. 生命の流れを軸とした固体の変化をとらえる。	固体の成り立ち 細胞生理 生体内の物質の流れと働き 恒常性の維持 遺伝
	論文作成の基礎	1 (30)	論理的思考の力を育て、正しい文章表現を育てる。	1. 論文を書く上の基礎的知識を学び、文章構成力、表現力を身につける。	論理的思考の基礎 論文の読み方 論文作成
	研究入門	1 (30)	研究的視点を学び、科学的思考、論理的思考力を養う。	1. 基礎的な研究過程を理解できる。 2. 研究的態度を養う。 3. 情報科学の基礎を学ぶ。	研究概要・方法 事例研究の進め方 情報処理 パソコン操作の基本
人間と生活・ 社会の 理解	家族社会学	1 (30)	社会の中に存在している人間関係、家族関係、社会関係を様々な角度から見るにより、対象を多面的に理解できるようにする。	1. 社会学（ジェンダー論を含む）の知見に基づき、近現代における人間・家族・社会の関係を理論的・実証的に理解する。	家族の形態と機能 家族形態の変化と家族の変容 現代家族のシステムと家族の危機
	人間関係論	1 (30)	看護には、人間を深く理解することが求められている。生活している人間の理解と看護者としてのあり方、対人関係のもち方、対象である人間を理解する能力を養う。	1. 自己理解・他者理解を深め、円滑な対人関係を築くための能力を養う。 2. グループワークを通して問題解決能力を養う。	生活と人間関係 コミュニケーション（理論・技術） カウンセリング グループダイナミクス リーダーシップ・メンバーシップ 体験学習
	発達心理学	1 (30)	人の生きる過程、発達の基礎を学び、心や行動を多面的に理解する視点を養う。出生から死までの発達の变化を理解し、適切に対応できる能力を養う。	1. 基礎的な発達理論を理解する。 2. 人の身体的・運動機能的発達を理解する。 3. 認知・思考・情動といった内的過程の発達を理解する。	人間発達理論 発達段階 発達課題 心理・社会的危機 各発達段階の特徴
	健康スポーツ学	1 (45)	運動と健康に関する理解と認識を深め、身体を動かすことの意義を実感する。	1. 心身の機能と運動の関係を学び、身体の発達、安静、機能回復の意味を理解する。 2. 運動を実施することで自己の健康を保持、増進できる。 3. 運動を通して気分転換することができる。	運動と生理の理論 運動と健康、体力との関係（自己の体力分析） 体育実技
	臨床英語	1 (30)	英語を通して、国際感覚を養う一助とする。	1. 看護に活用する用語を理解する。 2. 英会話を通して国際感覚を養う。	看護、医学英語の解釈 看護場面の英会話

専門基礎分野

14単位 360時間

目的

- (1) 人体を系統立てて理解し、健康、疾病に関する観察力、判断力を身につける。
- (2) 人体の正常な構造と機能を学び、健康障害と回復への過程が理解できる。
- (3) 保健医療福祉に関係する法規を学び、医療従事者としての役割と責任について理解できる。
- (4) 保健医療福祉の連携と社会資源の活用について理解できる。

	科目	単 位 (時間)	設 定 理 由	目 的	主 な 内 容
人体の構造と機能	解剖学	1 (30)	人体の構造について系統的に学ぶ。	1. 人体の構造を理解する。	人体の概要と解剖学用語 人体各部位の名称と構造 呼吸器、循環器、消化器 感覚器の構造 筋・骨格系、脳・脳神経の構造
	生理学	1 (30)	人体の形態と機能を系統的に学ぶ。	1. 人体の各器官・系統のもつ働きの意味を理解する。 2. 生命現象の仕組みを理解する。	呼吸・循環のしくみ 体温とその調節 消化吸収のしくみ ホルモンの作用機序、産生と分泌の調整 酸塩基平衡とその調節 神経系による調節 感覚器による作用 中枢神経による情報処理
	生化学	1 (30)	生体内における物質代謝の機能を理解する。また人間の健康にとって必要な栄養を理解し、対象の看護に活かす。	1. 人体の基本単位である細胞の構造と機能を理解する。 2. 栄養と代謝、代謝産物の排泄について理解する。 3. 遺伝のしくみについて理解する。 4. 栄養の意義を理解する。	細胞の構造、機能 生体構成成分 酵素の性質と働き 生体エネルギー 三大熱量素の代謝 遺伝子 水と無機質 血液 臨床栄養の意義 疾患と食事
疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1 (30)	疾病によって形態や機能・代謝の異常がどのように生じるかを学び、病態と治療及び看護に活かす。	1. 疾病の原因や発生病理を理解する。	疾病の原因、内因と外因 疾病の分類 先天異常 代謝異常 循環障害 炎症と免疫 腫瘍 老化と死
	微生物学	1 (30)	感染症の原因となる微生物について理解し、感染・生体防御機構、発病、感染予防と治療を学ぶ。	1. 微生物の特性と人体に及ぼす影響を理解し、対象の安全や感染予防の必要性を学ぶ。	感染症の成り立ち 細菌・ウイルス・真菌・原虫 免疫 滅菌と消毒 感染予防 院内感染

	科目	単 位 (時間)	設 定 理 由	目 的	主 な 内 容
疾病の成り立ちと回復の促進	病態と治療Ⅰ (呼吸・循環・血液)	1 (30)	病態と治療Ⅰ～Ⅳ 健康障害をもつ対象者の病態のメカニズムとその治療、検査、予後について学び、各看護学に活かす。	病態と治療Ⅰ～Ⅳ 1. 各系統別に疾病に関する病態・検査・治療・予後を理解し、看護に役立てる。	呼吸器系 循環器系 血液・造血器系 膠原病・アレルギー 感染症
	病態と治療Ⅱ (脳神経・運動器・感覚器)	1 (30)			脳神経系 骨・運動器系 感覚器 眼科系・耳鼻咽喉科系
	病態と治療Ⅲ (消化器・腎・内分泌)	1 (30)			消化器系 腎泌尿器系 代謝・内分泌系
	病態と治療Ⅳ (女性生殖器・乳房)	1 (15)			女性生殖器 乳房
	薬理学	1 (30)	薬物の特性・作用・副作用を理解し、各看護学に活かす。	1. 薬物の特性・作用・副作用について基本的知識を学ぶ。 2. 人体への影響及び薬物の管理について理解する。 3. 薬剤師の服薬指導を学び、薬理学の臨床での活用を理解する。	薬物の作用・副作用 薬効に影響を及ぼす要因 薬物の適応 化学療法 薬物の管理 服薬指導
健康支援と社会保障制度	公衆衛生	1 (15)	人間の健康をプライマリ・ヘルス・ケアの視点でとらえ、健康生活を守る社会システム、時代によって変わる人間をとりまく環境について学ぶ。	1. 医療従事者に必要な公衆衛生の基礎能力を養い、様々な資源を広く適切に活用し、人間の健康に対する問題を現実的に解決に導くための問題解決能力を培う。	公害と環境保全 生活環境因子 人口と保健統計 公衆衛生活動の実際 衛生行政 公衆衛生の展望 予防衛生法規 公害関係法規
	社会福祉	1 (30)	保健医療福祉を総合的に理解するために福祉の分野から人々の生活を理解し、看護に必要な機能・役割を認識する。	1. 社会福祉の概念と変遷を学び、人々が地域社会で生活するためのサポートシステムと活動を理解する。	社会福祉の概念・変遷 社会福祉の制度 社会保障制度 社会福祉の分野とサービス 障害者福祉 高齢者福祉 保険と年金制度
	生命倫理	1 (15)	生命とは何か、人間とは何かを深く考えることで看護の対象を理解する一助とする。	1. 生命に対する基本的理念や倫理観を養う。 2. 医療、看護の望ましいあり方、考え方などを自覚する。	人間の生命とは 事例研究 医療における生命倫理の問題・もつべき倫理観 安楽死・尊厳死・患者の権利・インフォームドコンセントと告知・中絶 体外受精・出生前診断
	関係法規	1 (15)	保健医療福祉に関する法規を学び看護に活かす。人間の生死にかかわる看護職は法で守られ、法で裁かれることを熟知しておく必要がある。	1. 人々の個人の尊厳と生命の尊重を旨とする看護師の法的責任と義務に関する法学を学ぶ。	刑事法・民事法・行政法 医事法規 保健衛生法規 福祉関係法規 薬事法規 医療過誤